

昨年から近隣の同宗派のお寺では、お盆の施餓鬼法要を行わなくなったところがいくつかありました。その理由は、「夏の暑さ」です。ただ当寺院に関しては、コロナ禍の時に判断が難しいこともありました。これまで通りの行事予定でお勤めを続けていく所存です。ただし、皆様のお参りの行き帰りの道中では、本当にお気をつけいただければと思います。

しかし、その暑さ対策だけでなく、近年の物価高騰や宗教儀式の簡略化といった時代の流れは止めようがありません。また、私自身の「老化」も、これまた止めようがありません。昨年末にお伝えしたことも含め、当寺院においてもいろいろと変更するところがありましたので、今回お知らせいたします。

普照院 檀信徒の皆様へ ～法衣に関すること～

1、ご自宅でご法事をお勤めする際は、改良服にてお勤めさせていただきます。

これは昨年にもお伝えしておりましたが、昨今の住宅事情により、ご自宅で法事をする場合に僧衣の着替えは致しません。

・改良服とは、寺院内での生活のほか、檀家さん宅への訪問、斎場に出向く際などの外出着としても用いる僧服です。袖を小さめに丈を短かめにし、道中などの便宜のために作られた、略式ですが正式な法衣です。

2、特に葬儀式の際に着用しておりました、『もうす』（写真の帽子のようなもの）という法衣を今後は着用しません。

申し訳ありませんが、これは私の老化が原因です。
これを着用していると、まわりの音が聞き取りにくくなってしまったので、被らないことにさせていただきます。



3、本堂での法事の際の法衣は、『黒』色の衣を着用します。

今年の5月に、お陰様で私は「僧正」という僧階位になりました。この僧正という位になると、これまでの「僧都」という位の際に着用していた「緑」色の衣から、「紫」色の衣に変わります。ただこの紫色の衣は、生地や製法が特殊でとても高価なものとなり、なるべく長持ちさせないと私が僧侶の間に何度も買い替えなければなりません（今回のものは、薬仙寺より頂戴致しました）。そのためこれを機に、紫色の衣は葬儀式と施餓鬼法要の際のみで着用することにします。そして通常の本堂での法要の際には、原則として「黒」色の衣を使用させていただきます。

以上

樽地蔵尊（当寺院本堂にご安置してあるお地蔵様）のお話

当寺院の本堂内には、樽の上に^{あんち}ご安置されているお地蔵様^{まつ}がお祀りされています。このお地蔵様は、お隣の薬仙寺から譲^{ゆず}り受けたものですが、その譲渡^{じょうと}の際にずっとお地蔵様を守り続けてこられた方からそのご由緒^{ゆいしよ}を教えていただき、それは以下のようなものでした。

江戸時代後期の明石藩^{あかしはん}に、お酒の大好きな「彦兵衛^{ひこべえ}」という方がおりました。彼はとても真面目な方だったのですが、間違^{まちが}ってお殿様に成敗^{せいばい}されてしまいました。なぜ、しっかりとした審議もなく殺されてしまったのかと言いますと、当時その明石藩を治めていたお殿様は暴君として恐れられており、彼の間違いを諫める部下がいなかったからだそうです。しかし後にそれを知ったお殿様が反省し、彦兵衛さんの供養のため、お地蔵様を彼の大好きだった酒樽の上に載せてお祀りしたのだそうです。

その後、太平洋戦争の影響などで、明石から兵庫区の三菱重工敷地内、さらに薬仙寺境内と移転^{いた}してきて、今に至るそうです。そんな話を聞いてはいたのですが、その時は深く調べたりはしませんでした。しかし数年前に映画「13 人の刺客^{しかく}」（2010 年作）を見て、その内容があまりにもお地蔵様の由緒話とそっくりなため、調べてみた結果、長寿院^{ちようじゅいん}（明石市人丸町）というお寺にその明石藩主^{まつだいら なりこと}（松平 斉宣公）のお墓があることが分かり、取材も兼ねてこの記事を書く前にお参りさせていただきました。

右写真は、斉宣公ご夫婦のお墓です。いろいろなことがあったお二人だと推測しますが、今はこうやって仲良く並んで埋葬されているのですから、結論としては、これで良かったのかなと現地で感じました。 南無阿弥陀仏



〔編集後記〕この寺報を書き始めた矢先、イランとイスラエルの戦争に「待った」がかかりました。また、ロシアとウクライナの戦争は、トランプ大統領が就任前に豪語したようには進展していません。そしてインドとパキスタンの国境紛争については、これもなんとか収束している状態で再び再発する懸念が残っています。こうなると現在、とりあえず平和な状態を保っているのは、東アジアと呼ばれる私たち日本の近隣地域だけです。しかし、最近よく言われる「台湾有事」が発生してしまうと、これはもはや第三次世界大戦と言っても過言ではない状況となってしまいます。今年の夏、世界は先の大戦後 80 年という節目を迎えますが、この東アジア地域でかろうじて保たれている平和を再度世界に広げるために、世界安寧の祈りを続けていきたいと思います。 合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町 4 - 1 - 29

電話 078 - 671 - 1787 ファックス 078 - 330 - 1187

ホームページ <http://fusyoin.com/>



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげて下さい。



普 照 院

検索